



TITLE:

研究会はいつ行われるか?(ひろば)

AUTHOR(S):

CITATION:

研究会はいつ行われるか?(ひろば). 物性研究 1965, 4(6): 481-481

ISSUE DATE:

1965-09-20

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/85801>

RIGHT:

研究会はいつ行われるか？

— 読 者（匿名希望）

我国の物理の研究活動の中で、物性研、基研で行われる研究会の占める比重はかなり大きい。人によつては、研究会活動を学会での発表よりも重視している傾向がある。学会の規模が大きくなりすぎ、十分な討論の時間がとれない現状では当然の成り行きかもしれない。所がその研究会が、何時、何処で、どのような形式で行われるのか全く知らされない場合がしばしばある。予算配分をきめた後は、運営方法を含めて世話人にすべて一任してしまうのだろうか。地方にいるものにとつては「会誌」や「物性研究」に時々公募されている研究会しか知る機会に恵まれない。が事後報告めいたものを「物性研究」「物性研だより」に見る数の方が多いようである（しかも $1/50$ か $1/100$ にちぢめられた要旨のみの information を）その分野の第一線で活躍されている方々とか世話人の熟知している方々にのみ通知する方法がとられているならば、地方にいるものとかこれからその分野に入ろうとするものにとつては門戸を閉ざされたに等しい。予算が乏しい為に第一線の方々を招集するだけで手一杯だといわれるかもしれない。確かにその方が効率よく研究会を運営することが出来るだろう。その分野の研究の世界的水準を維持するのに止むを得ない処置といわれるかもしれない。しかし研究予算は物理の研究発展の一助として公に支出されているものである以上、原則としてはクローズしてしまわずその平均化との兼合いをも考慮すべきではなからうか。

最後に2つの希望を書かせてほしい。

- ① 研究会は原則として公募し、出席者の選考基準を明らかにしてほしい。
- ② 「物性研究」にもつとくわしい報告をのせてほしい。